

Part1101 ◆需要と供給が一致する「市場の均衡」

「市場の均衡」は市場理論のベースとなるものです。さらに言えば、ミクロ経済学のすべてのシーンのベースとなるものです。

「市場の均衡」を簡潔に表現すると、「需要曲線」と「供給曲線」が交わる点となるのですが、まずは、「需要曲線」とか「供給曲線」とはいったいどんなものなのかを確認しましょう。

ところで、経済学の世界では様々な「〇〇曲線」が登場しますが、これらは時として直線になる場合もあります。そんな場合でも、「〇〇直線」と呼ぶのではなく、あくまで「〇〇曲線」と呼びます。

それから、たびたび「財」という言葉が登場しますが、これは大別すると2種類あります。一つは、形があって目に見える様々な製品（商品）です。そして、もう一つは、形のない様々なサービス行為です。「サービス(service)」といっても、無償（タダ）で行うものではなく、美容院、美容院、クリーニング、映画館などのサービス業のことです。

●需要曲線 D : Demand (デマンド)

消費者(=需要者)たちの消費量(=需要量)と、需要価格の組合せを表す線で、通常は右下がりになります。

需要価格とは、消費者たちの希望上限価格(この額以下の価格で買いたいと考える価格)で、一般に価格が低いほど消費者が増え、需要量も増えます。

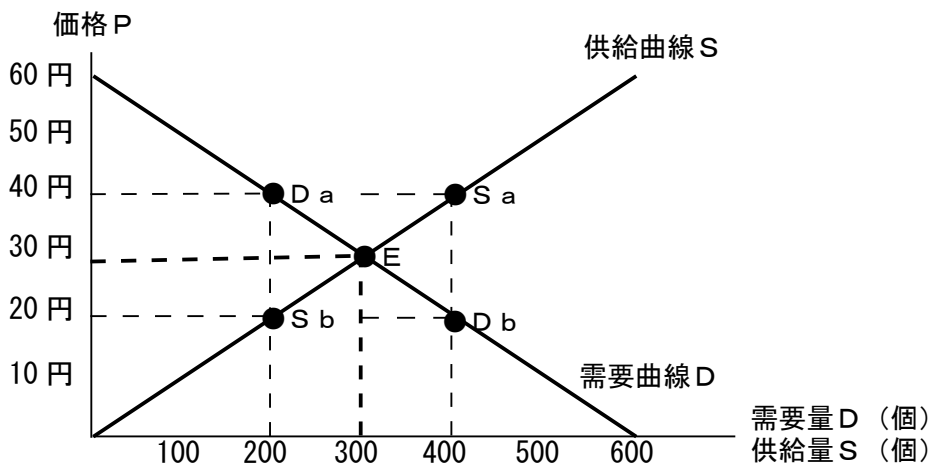
●供給曲線 S : Supply (サプライ)

生産者(=供給者)たちの生産量(=供給量)と、供給価格の組合せを表す線で、通常は右上がりになります。

供給価格とは、生産者たちの希望下限価格(この額以上の価格で売りたいと考える価格)で、一般に価格が高いほど生産者が増え、供給量も増えます。

●市場均衡

需要曲線と供給曲線が交わる点です。新しい財(新製品、新サービス)が市場に出た当初は、需要と供給が一致しないことがあります。やがては一致し、その価格 P (Price) も一定の額(均衡価格といいます)に定まります。



需要曲線と供給曲線

前ページの図において、
例えば、価格Pが40円だと、消費者はD a点、生産者はS a点で、
「40円まで払ってよい」と考える消費者は少なく、需要量は200個。
「40円以上で売りたい」と考える生産者は多くて、供給量は400個。

例えば、価格Pが20円だと、消費者はD b点、生産者はS b点で、
「20円まで払ってよい」と考える消費者は多くて、需要量は400個。
「20円以上で売りたい」と考える生産者は少なく、供給量は200個。

これに対して、価格Pが30円であれば、需要量Dと供給量Sがともに300個で一致し、「市場均衡」となることを示しています。

例題 1-1

ある財の 需要関数が $D = 60 - 4P$
供給関数が $S = 2P$
で表されるとき、市場均衡における価格P : Price (プライス) はいくらか。

1. 6円 2. 8円 3. 9円 4. 10円 5. 12円

市場均衡とは、需要と供給が一致する状態ですから、 $D = S$ です。

$$60 - 4P = 2P$$

$$6P = 60$$

$$P = 10 \text{ (円)} \rightarrow \text{均衡価格といえます。} \text{「正解 4」 となります。}$$

なお、Pに各選択肢の金額を入れて（代入して）、解くこともできます。

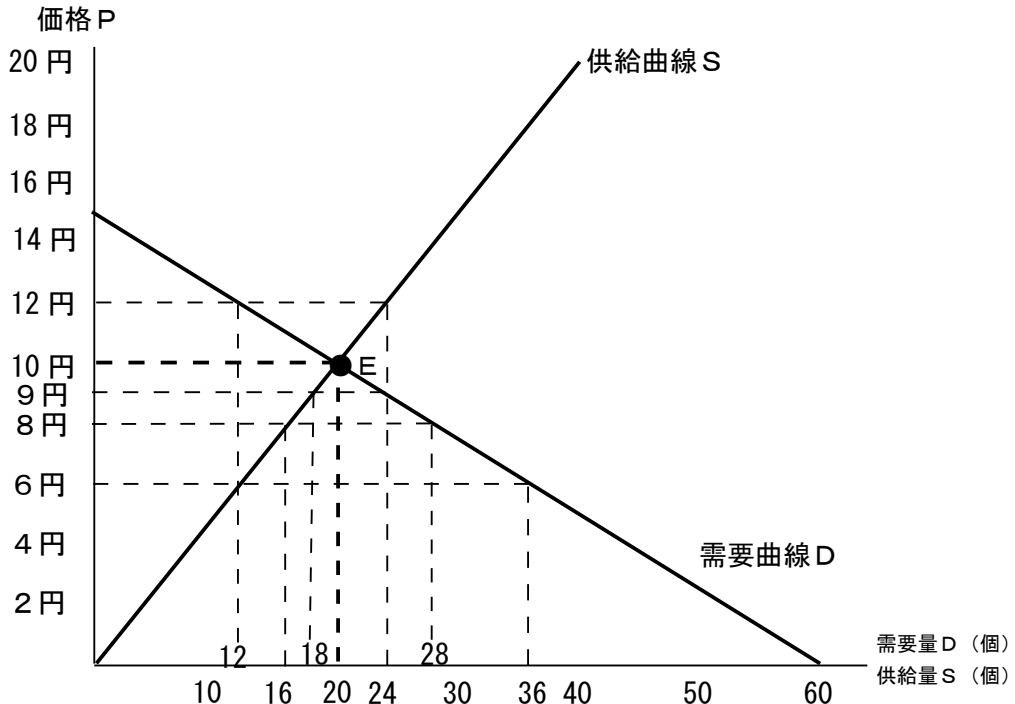
$$P = 6 \text{ のとき} \quad D = 60 - 4 \times 6 = 36 \quad S = 2 \times 6 = 12$$

$$P = 8 \text{ のとき} \quad D = 60 - 4 \times 8 = 28 \quad S = 2 \times 8 = 16$$

$$P = 9 \text{ のとき} \quad D = 60 - 4 \times 9 = 24 \quad S = 2 \times 9 = 18$$

$$P = 10 \text{ のとき} \quad D = 60 - 4 \times 10 = \underline{20} \quad S = 2 \times 10 = \underline{20}$$

$$P = 12 \text{ のとき} \quad D = 60 - 4 \times 12 = 12 \quad S = 2 \times 12 = 24$$

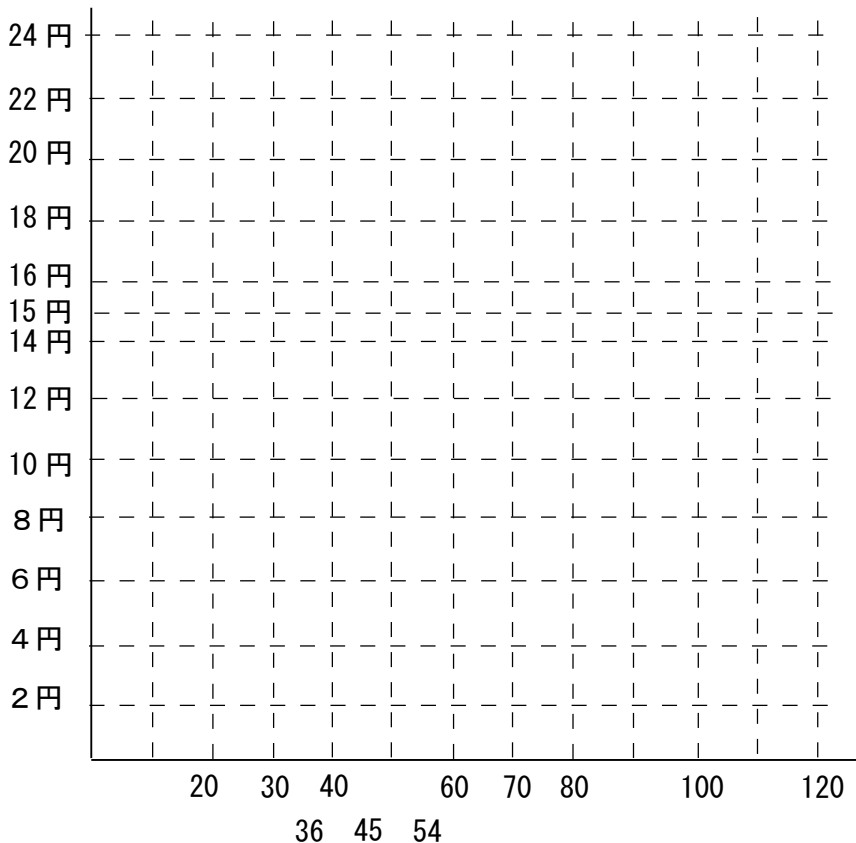


今度は、あなた自身が自力で解いてみましょう。
なお、問題を解くうえで、とくに図（グラフ）を描く必要はないのですが、
理解を深めるために、是非描いてみることをお勧めします。

問題 1-1

ある財の 需要関数が $D = 120 - 5P$
供給関数が $S = 3P$
で表されるとき、市場均衡における価格 P はいくらか。

1. 10 円
2. 12 円
3. 15 円
4. 18 円
5. 20 円



問題 1-1

市場均衡とは、需要と供給が一致する状態ですから、 $D = S$ です。

$$\begin{aligned} D &= S \\ 120 - 5P &= 3P \\ 8P &= 120 \end{aligned}$$

$P = 15$ (円) → 均衡価格といいます。「正解3」となります。

Pに各選択肢の金額を入れて（代入して）みましょう。

P = 10 のとき	$D = 120 - 5 \times 10 = 70$	$S = 3 \times 10 = 30$
P = 12 のとき	$D = 120 - 5 \times 12 = 60$	$S = 3 \times 12 = 36$
P = 15 のとき	$D = 120 - 5 \times 15 = 45$	$S = 3 \times 15 = 45$
P = 18 のとき	$D = 120 - 5 \times 18 = 30$	$S = 3 \times 18 = 54$
P = 20 のとき	$D = 120 - 5 \times 20 = 20$	$S = 3 \times 20 = 60$

グラフは、次にのようになります。

